

說教良材集

冊合



特35

844

014317-000-9

特35-844

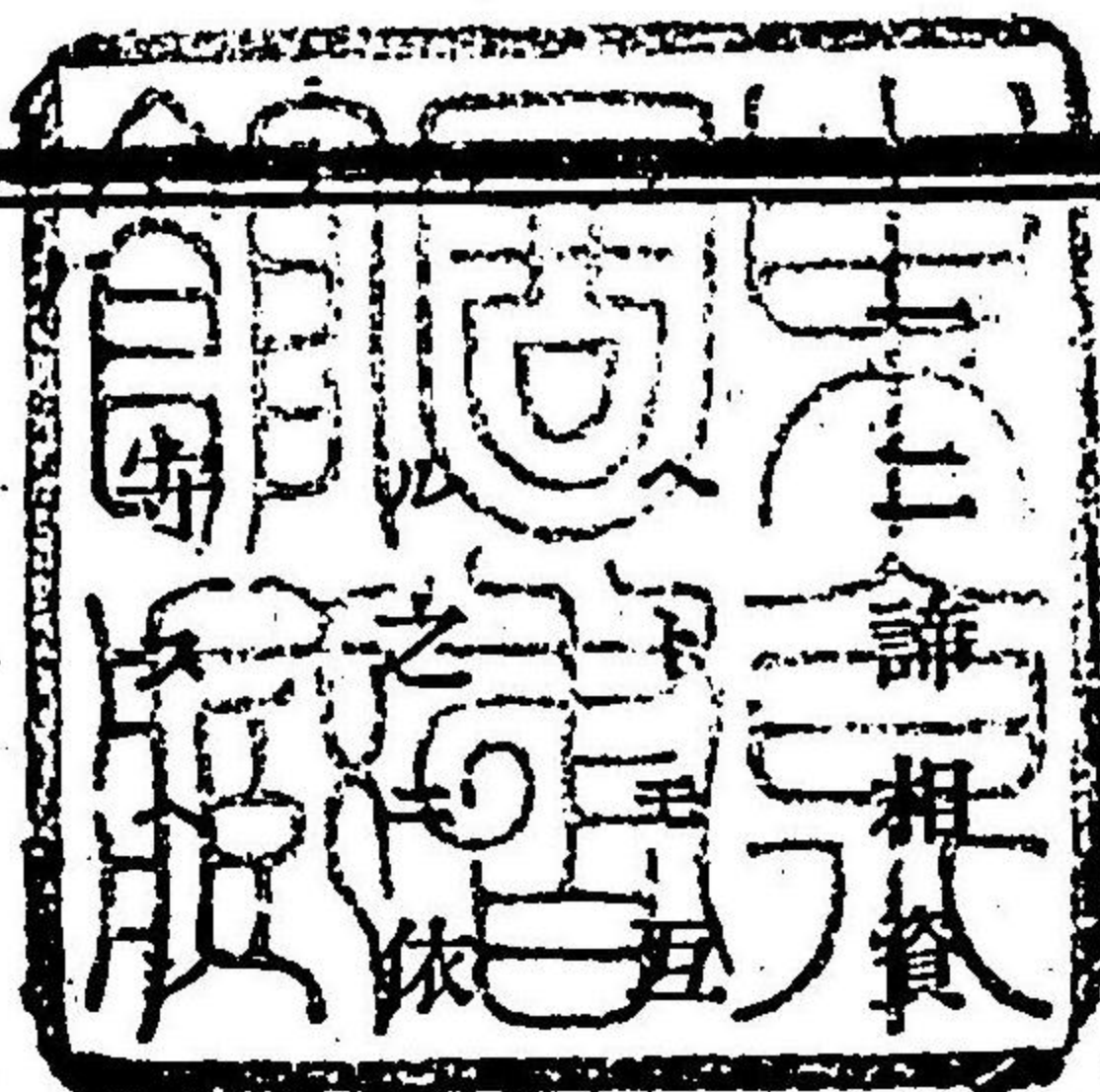
說教良材集(合冊)

兒玉 寬淵 / 著

M11

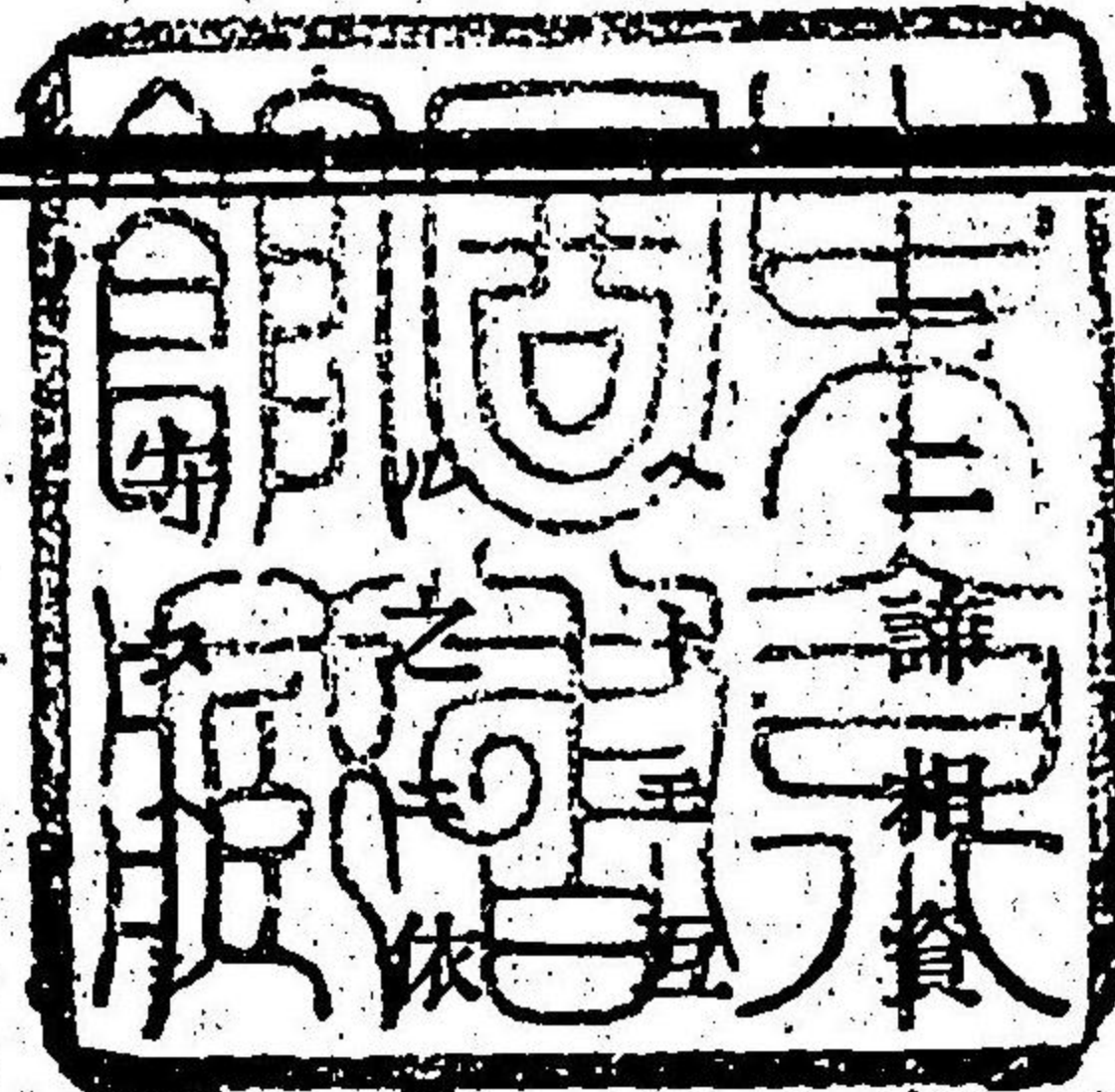
ABB-0662





凡例

シテ死生ノ教義以テ成ル政教本ニナリト云
 ニ相護益スルニ於テ道義正ニ通暢スルヲ得
 テ能ク宗教ヲ信從スル者ハ必ス能政道ヲ遵
 今此編ニ着ス所ハ只其世教ノ部ニ在テ譬喩
 因縁ヲ類聚シテ以テ説諭ノ章程ヲ助ント欲ス請フ教
 場ニ登ルノ日其類ニ應シテ宗意ヲ交説スル事猶シ詩
 語ト詩韻トヲ合取シテ以テ詩ノ一篇ヲ成スルカ如シ
 觀者此書ヲ以テ教義既ニ充實スト誤認スル勿レ
 一此書ノ原志世人或ハ佛法ヲタニ信スレハ世教ハサモ



凡例

シテ死生ノ教義以テ成ル政教本ニナリト云
 ニ相護益スルニ於テ道義正ニ通暢スルヲ得
 テ能ク宗教ヲ信從スル者ハ必ス能政道ヲ遵
 今此編ニ着ス所ハ只其世教ノ部ニ在テ譬喻
 因縁ヲ類聚シテ以テ説諭ノ章程ヲ助ント欲ス請フ教
 場ニ登ルノ日其類ニ應シテ宗意ヲ交説スル事猶シ詩
 語ト詩韻トヲ合取シテ以テ詩ノ一篇ヲ成スルカ如シ
 觀者此書ヲ以テ教義既ニ充實スト誤認スル勿レ
 一此書ノ原志世人或ハ佛法ヲタニ信スレハ世教ハサモ

アラハアノナト心得惑ヘル者ハ爲ニ世諦ノ能一日モ
守スンハアルベカラサル所以ヲ諭スヲ以先務トス依
之編中或日本書記等ニ依テ神明ノ行跡ヲ舉説スルカ
如キ彼造化天降等ノ道義ヲ論判スルヲ要セス只專ラ
彼事縁ヲ剽取シ以庶民ヲシテ今ノ朝旨ヲ遵守セシム
ルニ至テ止ナン而已

一説教ハ觀機ヲ先トス時ニ隨ヒ處ニ應シテ聽者ノ賢愚
及進未進ヲ善ク觀察シテ而テ後勸誘ノ方術布教ノ章
程ヲ設クル事豈忽ニスヘケンヤ今此編ニ著ス所ハ多
クハ遐陬未開ノ頑夫遠境半開ノ庶民ヲ諭スニ位シテ

敢テ文詞ノ巧拙ヲ省ミス四方ノ君子夫之ヲ恕セヨ

一僕曾テ壬申秋教則三條ヲ辨釋スルニ私ニ三十題ヲ施
設シテ知新錄三卷ヲ著ス今茲二三ノ同志子ニ勸メテ
此錄ヲ上梓セシ事ヲ議ル予云不爾今天下ノ有志皆既
ニ熟讀ス焉ソ此鄙稿ヲ公ニスルヲ煩ヤンヤ然ニ此十
七題ノ如キハ諸君子ノ論述スル所其義旨詳細ナリト
雖モ而モ之ヲ教導ニ及ホレテ庶民ニ親ク其實地ヲ踐
マレムルニ至テハ未全ク題意ノ蘊奧ヲ發シ盡サハル
所アルニ似タリ是ヲ以テ今不敏ヲ顧ミス聊管見ヲ以
テ題意ノ所在ヲ窺ヒ之ヲ筆點ニ備テ以テ教導初歩ノ

蒙ニ便セント欲スルノミ

標目

上卷

- 一 皇國文明ノ由來并朝鮮人ノ情態 二丁
- 一 二人ノ旅客鬼堂ニ宿シテ相争フ事 六、
- 一 今上皇帝五箇ノ御誓文ノ事 八、
- 一 朝議確定シテ不拔ノ憲法ヲ立ル事 九、
- 一 障子ヲ削テ嫁ヲ諭ス大工ノ話シ 十一、
- 一 英國版圖内ノ工業昌盛ノ事 十四、
- 一 蒸氣縮密機器ヲ製スル瓦徳ノ事 十五、
- 一 蒸氣行動機器ヲ製スル土堤反孫ノ事 十五、

- 一 御詠并御親翰 十七
- 一 竹田機換ノ喻 十八
- 一 贖金等ノ律法神代ヨリ備ハル事 十九
- 一 福岡縣百姓一揆派出説教ノ話シ 廿一
- 一 父ハ呵リ母ハ抱テ諭セルヲ之歌 廿一
- 一 天稚彦反矢ニ中テ立口ニ死スル事 廿二
- 一 初疑公布中信朝旨後仰天恩之辨 廿六
- 一 僧侶ノ苗字并乞鉢廢止之朝旨 廿六
- 一 駕籠町甚右衛門青錢ヲ貯シノ事 三十
- 一 物價騰貴并國産輸出ノ解禁ヲ論ス 三十二

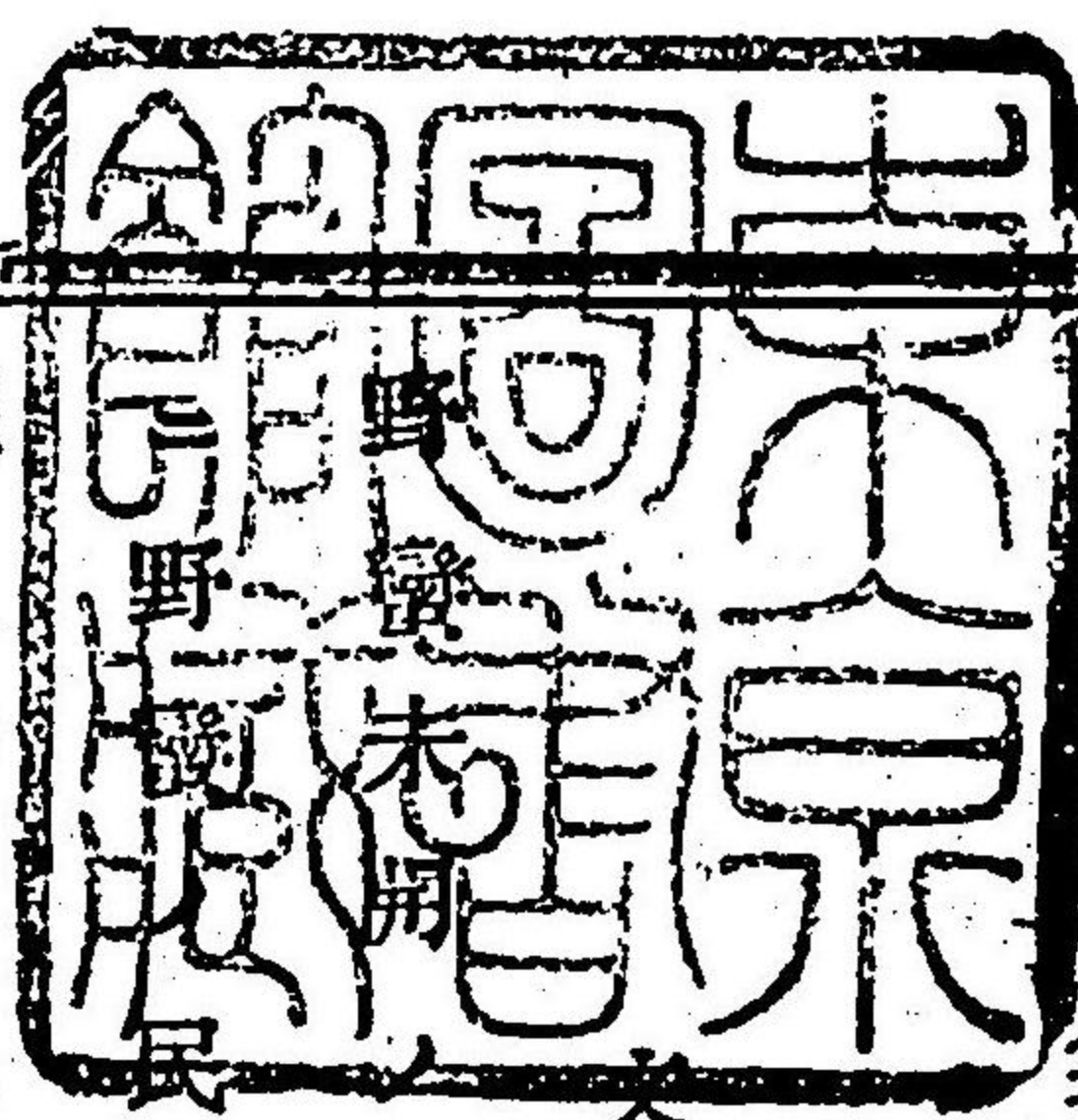
- 一 上海及倫敦等ノ開店ノ利益 三十三
- 一 餘邪子ノ願一生八月常月夜ノ事 三十四
- 一 時代流行モ亦天理變更ノ辨 三十五
- 一 忠孝ノ道體漢和同異ノ論 三十六
- 一 大神天ノ石窟ニ幽リ玉フ事 三十八
- 一 伊弉册尊蛭子宮ヲ産ミ玉フ由來 四十

下卷

- 一 權利義務ニ過不及ノ失アル事 二
- 一 權利ノ中道并馬ニ義務ナキ諭シ 三
- 一 越前ヨリ十七股ノ白鹿ヲ獻スル事 四

- 一金ノナル樹并立花ノ喩 五
- 一萬國交際ヲ論スルニ三由ヲ述ス 八
- 一先帝ノ攘夷今上ノ和親一致ニ歸ス 九
- 一定紋付ノ提燈ノ喩 十
- 一牽カレテハ惡キ道ニモノ歌 十一

説教良材集上



大明開化

兒玉寛淵著

野蠻未開ノ風俗ニ對シテ文明開化ノ名稱ヲ立ツ其意終
 在リ若其文明ノ道體ヲ論スレハ至大至廣ニシテ窮極ア
 ルヘカラスソノ文ノ文タルヤ終ニ天地ト位ヲ同フシソ
 ノ明ノ明タルヤ日月ノ下土ヲ照臨シテ毛髮ノ冥暗ナク
 黑白邪正分明ナルカ如シ然ルニ皇國ノ如キハ御一新前
 ナ名テ半開ノ國トシ御一新後ヲ名テ文明國トスソノ進

歩ノ功ヲ論スレハ神國ノ氣象固有ノ靈德ヲ以テ開化文明ノ日ヲ逐テ隆盛ナル事蒲蘆ノ長スルカ如ク日ノ昇ルカ如シソノ行政上ニ在テハステニ西洋諸國ノ右ニ出ント欲スルノ勢アリト雖トモ偏境遐陬ノ愚民輦下ニ遠キ人々ノ陋習天然ノ正理ヲ知ラスシテ習慣甚去カタクシテ動モスレハ公布ヲ疑ヒ新制ニ戾テ文明ノ域ニ進歩スル能ハス夫我國文明ノ由來スル事既ニ久シ農工商ノ業共ニ行レ技藝文學經史ヲ講習シ鑛山ノ道及産物製物ノ奇工ヲ盡シ五倫ノ道ヲ明カニシ敬神祭典ノ禮義ヲ重シテ外形ノ文章氣志ノ高明更ニ之ニ加フヘキ無キカ如

シト雖モ習慣ノ久キ人情ニ沿襲シテ陋弊隨テ生シ天理ノ變更ヲ知ラスシテ尙古ヲ貴ヒ門閥ヲ立テ舊記ヲ重シ我國ヲ第一トシテ他國ヲ貶メ己レニ勝ル事ヲ知ルト云ヘモ政テ之ヲ習フ事ヲセス機械粗ニシテ無益ノ人力ヲ勞スル事明者ヨリ之ヲ見レハ惑フハ猶惑ヲ知サラルニ等シ一例ヲ舉テ申サハ木下某ハ由縁アリテ久シク朝鮮ニ寄留致セシカ秋ノ頃口村民ノ修農スルヲ見ルニ右ノ手ニ割竹ヲ持テ左ノ手ニ稻ヲ十本計リ握テソノ竹ニ狭ミテ扱ヲ漕グユト所々悉ク如是クナル故ニアマリ堪カタク思ヒ會長タル者ニ對シテ千把漕ノ法ヲ教ント語

テ申スニハ日本杯ニハ千把漕ト申ス物アリテ鐵ニテモ
竹ニテモ尖リタル串ヲ齒組ニシテ筒様ナル仕掛ニシテ
前ニスヘ置キ兩方ノ手一杯ニ稻ヲ握リ夫ニ打掛テ漕ク
トキハバラ々ト靱カ落テ其仕業ノ速ナル事ハ割竹ヲ
持テ片手ニテ漕ヨリモ凡ソ十倍ナラン程ニ早ク此機械
ヲ拵テ國中ニ弘メ玉ヘト申セハ會長申スニハイヤ此國
ハ昔ヨリ割竹ニテ稻ヲ漕ニ調度ヨキ程ニ秋ノ仕舞カ附
キマス故ニヤハリ仕馴レタル事ノ方カ村民ノ勝手カ善
ク御座ルト云フ故ニ木下申スニハ夫テモ十人ノ仕業テ
一人テスル程ノ道具ナレハ之ヲ拵テ人勞ヲ助ケ玉ヘト

申セハ會長甚々頑固ニシテ新器ヲ用フル事ヲ嫌ヒ笑テ
申スニハ左様ナ物ヲ拵テ稻ヲ漕クナラハ此國ニハ澤山
ニ空手カ出來テ却テ遊惰ノ本ニナリマセウト國中ノ情
態大概如スト云云日本ニハ最早數年來千把漕ヤ千石通
シテ用ヒ來ル故ニ各方ハ斯ルハナシテ聞テサテハ朝鮮
人ハ頑固ナリ陋習ナリト思ハレウカ既ニ御一新ノ始ニ
於テハ在席ノ各方モ蒸氣船ノ煙ヲ嫌ヒ洋服ヲ貶メ電信
機ヲ疑ヒ寫眞鏡ヲ怪ミ英佛ノ兵式ヲ嘲リシキ西洋人之
ヲ聞テ大ニ日本ヲ輕侮スル事モ又復如斯ナラン之ニ依
テ今般舊來ノ陋習ヲ破リ維新ノ良政ヲ建玉フ事ハ破屋

ヲ改テ新宅ヲ結構スルカ如シ各早ク大活眼ヲ開テカ
ル新宅ニ安住シテ知識ヲ擴充シテ自由ノ理ニ達シ各自
ノ職業ヲ盛ニシテ機械富ミ兵隊備リテ互市場大ニ開ケ
信義ヲ厚フシテ有無通販スル事都テ正理ニ順シテ公明
ヲ行ヒ一心奉天ノ精忠ヲ專ラトシテ終ニ固有ノ靈德ヲ
研キ出スルハ之ヲ皇國ノ文明ト名クルナリ彼西洋諸國
ノ文明ノ如キハ一視同仁四海兄弟ヲ以テ精神トシ上下
同權ノ智德ヲ擴メテ各國相和同シテ竟ニハ兵備軍艦モ
亦益ナキカ如クナルニ至ラント欲スト云ヘトモ地理人
情ノ等シカラサルカ如ク信法モ亦豈天下悉ク一般ナル

事ヲ得ヘケンヤ若夫一般ヲサレハ其信ト不信ト相敵
スル事寇讎ヨリモ甚シ來世ノ天獄末日ノ審判當ニ別ア
ルノミニ非ス今世ニ於テ既ニ倫ヲ絶テ親ヲ離スル事現
量ニ於テ知ルヘシ彼十字軍ノ如キハ元宗教ノ熱心ヨリ
起テ二百年ノ久ヲ經テ尙和同スル事難シ西洋紀元千五
百二十年ルイザ氏始テ新說ヲ唱シヨリ以降新舊二教相
争フ事少カラス一宗別派猶相軌ル况ヤ水火相反ノ宗教
ニ於テヤ數千年ノ後ヲ俟ツト離ヒ滿天下只一教一信ナ
ル事ヲ得ヘカラス之ニ依テ惟希クハ知識ヲ廣ク世界ニ
求メ外形快適ノ機械ヲ採用シ信義ヲ遠ク萬國ニ通シテ

以我文明ヲ上進シテ國威ヲ海外ニ輝カサシムル事ヲ要スル
ノミ之ヲ和シテ同セスト云フ我宗教ニ嚴ク他宗ヲ誇リ
諸神諸佛ヲ輕蔑スルヲ禁スルハ自法愛染故毀訾他人
法離持戒行人不免地獄苦ノ論文ニ原ツク只其出離得脫
ノ道ニ於テハ本末以テ宗ヲ成立シ縁無縁以テ信疑ノ際
ヲ判スルノミ然リト雖モ世間道ニ於テハ專ラ皇國託生
ノ一縁ニ藉テ共ニ敬神ノ誠意ヲ貫キ一心奉天ノ精忠ヲ
拔ンテ倫ヲ結ンテ相親ニ終ニ遠ク海外ニ及ンテ信義ヲ
通シ安危ヲ同フス之ヲ名テ俗諦門ト云是此ノ俗諦門ノ
原因ハ平等大悲ノ波瀾觸光柔軟ノ和徳ヨリ縁起スルモ

ノナリ只恨クハ未徒不學ノ僧侶真如縁起ノ理ニ達セス
自法愛染シテ却テ我ニ守ル所ノ信行ナシ豈他ニ教テ信
ヲ生セシムルヲアラシヤ又邊境未開ノ門徒天理ノ變更
ヲシラスシテ萬國交際ノ朝旨ヲ疑ヒテ開化文明ノ公道
ヲ塞壓スルヲ誠ニ慨嘆ス可ノミ大論ノ中ニ迷界ト悟界
トヲ喻フルニ一人ノ修行者カ日暮ニ及ヒ宿ヲカレトモ
所ロノ習ヒトシテ孤客ニハ宿ヲカサメカクテ其村ノ山
寺ニ一ツノ空堂アルヲ聞テ夫ヨリ山寺ニ參リ其空堂ニ
一宿ヲ乞ヘハ和尚ノ申スニアノ堂ハ昔ヨリ云傳ヘテ夜
ニナレハ鬼カ出ルト云フ夫テモ厭ナクハ一宿ハ勝手次

第ト申セハ修行者ノトナレハ鬼位ハ恐レナシトテ其堂ニ
ニ忝リテ荷物ヲ卸シテ休ミ戸ヲセキテ臥タレトモ何ヤ
サラミシク底キミ悪クシテ寐入ラレヌ所ニ又一人ノ修
行者アリテ同ク宿ニカリハクレテ夜ニ入リユノ山寺ニ
忝リ彼ノ空堂ニ一宿ヲ乞ヘハ和尚又前辨ノ如クオニ出
テ苦カラスハ宿セラレヨト申ストユレモ亦修行者ノト
ナレハオニ位ハ恐レナシト申テ空堂ニ至ルニ前ノ堂内
ノ人其跡ヨリ來ル人ノ足音ヲキムテオニカ來タト心得
テ堂ノ戸ヲ明ケラレヌヨウニ内ヨリ押ヘテ居ル後ヨリ
來リタル修行者カ堂ノ戸ヲ明ントスレハ内ヨリ立附ル

故ニサテハ最早鬼カ出テ居ルト心得其オニヲ取ヒシカ
ント頻ニ戸ヲ押明ル内ヨリハオニガ這入テハ一大事ト
カヲ限リニ戸ヲ押立ル雙方ノリキミニテトフト其戸ヲ
セリ放スト互ニオニト思ヒ命ヲ限リニ相戦ヒ上ニナリ
下ニナリ攪ミ合テ勝負カ附カヌ故終ニ夜明ニナルト東
方ヨリ指昇ル朝日ノ明リニテ互ニ顔ヲ見合スシハ本國
ヨリ一所ニ出タル共同行ノ修行者テアリタトアル今モ
亦其如ク頑固陋習ノ聞ヤミテハ外國人ヲ敵ノ様ニ思ヒ
彼カ上陸ヲ嫌ヒ交易ヲイヤカリ機械衣服モ洋風ヲ貶メ
異國ヲ犬羊ノ様ニ思タハ文明開化ノ明リカナカツタ故

也依之御一新已來公明正大ノ活眼ヲ開キ信義ヲ以交際
ヲ結ヘハ彼レ犬羊ニ非ス鬼ニ非ス同ク天下一般ノ人民
ナレハ人ヨリ之ヲ見レハ自國他國ヲ別ツ天ヨリ之ヲ見
レハ一ノ盤上ニ基石ヲ連チタルカ如シ等ク是人ナレハ
友誼ヲ以廣ク交ルキハ安危ヲ共ニシ禮義ヲ正シテ互ニ
其幸福ヲ得ルヲ疑アル可キス

皇政一新

大祖神武天皇既ニ天下ヲ平定シ國造ヲ封建シテ土地人
民悉ク之ヲ朝廷ニ歸シ列聖承襲マシメテ天祖ヲ敬シ
天胤ヲ奉シ王化ヲ維時シテ以テ今日ニ至ル事ハ皇國確

然ノ國體タリト云ヘトモ時ニ盛衰治亂ノ變アリテ或ハ
大臣權ヲ握テ私門ヲ經營シ或ハ武門權ヲ專ラニシテ封
建ノ勢ヲナシテ風教區々ニ流レ土地人民漸ク分裂シテ
各趣向スル所ヲ異ニス然ルニ從前ノ如キハ獨立不羈ニ
シテ交リテ外國ニ接セサルカ故ニ封建ノ制ニヨリテ天
下又大ニ治マルト云ヘトモ昇平已ニ久キトキハ倦怠隨
テ生シ民心遂ニ分裂シテ將軍アルコトヲ知テ天子アル
コトヲ知ラサルニ至ル今ヤ萬國交際ノ盛時ニ於テ若土
地人民ヲ統一スルニ非ンハ弱國ノ弱政タルヲ免レス之
ニ依テ去ル卯年舊幕府時勢ヲ察シテ政權ヲ天朝ニ奉還

セシヨリ遂ニ封建ノ制度ヲ廢シ敢テ郡縣ノ新政ヲ行ヒ
玉フ今ヲ距ルコト七年前慶應四年辰三月今上皇帝聖算
十七歳ニシテ五箇ノ御誓文ヲ御建アラセラル此日本ハ
固ヨリ神國ナレハ先ツ第一ニ天地神明ニ誓ヒ古來稀ナ
ル未曾有ノ變革ヲ行ヒ萬民保全ノ道ヲ立ントノ深キ御
仁政ナレハ公卿方モ諸侯方モ誠ニ感銘ニ堪ヘス今日ノ
急務永世ノ基礎此ノ他ニ出ヘカラス臣等謹テ叡旨ヲ奉
戴シ命ヲテ限リニ黽勉從事シテ冀クハカ、ル震襟ヲ安
シ奉ラント御受ヲ申シテヨリ始テ皇政御一新ノ盛時ト
相成リ古制八省ノ法ニ原ヒテ三院十省ヲ列テ時機ニ隨

テ制律ヲ改定シ萬機公論ニ決シテ凡百ノ新度ヲ立玉フ
コト容易ナラサル御事ニテ天子正院ニ臨御在シ三大臣
補弼シ人才登庸ノ議官之ヲ公論ス或ハ新ニ租稅ヲ興シ
或ハ律法ヲ改定シ或ハ賞罰ヲ議シ或ハ歲入歲出及輸出
輸入或ハ貨幣製造或ハ諸港津ヲ開閉シ或ハ驛遞運輸ノ
法則ヲ定メ道路ヲ變換シ里程ヲ釐正シ或ハ地方警邏ノ
規則ヲ定メ或ハ兵制ヲ革メ或ハ鎮臺兵營及提督府等ヲ
變更シ或ハ裁判所ノ權限ヲ定メ或ハ大陰曆ヲ廢シテ大
陽曆ヲ施行スル等ノ百般ノ御評議ヲセラル、事何レモ
億兆安撫ノ叡慮ニ候ヘハ左廷ノ君子ノ萬機ノ政一ト

レテ愛國ノ外ニ出ルコトナシ之ニ依テ其朝議ト申スハ忝
クモ神明ニ誓テ立玉フ所ノ震襟ヲ伏承シテ天ノ正理ニ
順シ行末萬民ノ爲ニナル様ニ又外萬國ノ公法ニ背カヌ
様何レノ國ニ聞ヘテモ日本ノ政ノ上ニ無理ノナキ様又
億兆一視ノ御仁政ナレハ左祖偏頗ニナラヌ様又内皇國
ノ國體ヲ失ハス天祖ノ德澤ヲ益々輝ス様ニト議骨ヲ定
テ會議ヲ起シ御評決ニナレハ奏書ヲ認メ議官之ニ連印
シ内史之ニ記名シテ是ヲ太政大臣ニ出ス太政大臣之鈐
印シテ御批允裁ヲ受ケ直ニ之ヲ君命トシテ外史ニ付シ
テ其省ヨリヨリ全國ニ布告セシム夫如是ノ洪大深重ナ

ル御布告ノ條々ヲ御文面サヘ讀メヌ位ノ各方カ動モス
レハ巷議シテアレカ御無理シヤユレカ氣ニ入ラヌ杯申
サルハ偏境遐陬ニ在リテ文明ノ公道ニ達セス時勢ノ
變更ヲ知ラサルカ故ナレハ若新度ノ御布告ニ於テ勝手
ニ合ハヌ事アルトキハ我身ヲ省ミテ頑魯ニシテ朝旨ノ
所在ヲ知ラサルカ故カ又ハ理非ハヨク別リタルトモ陋
習ニ泥ミテ意口開ケヌ故ト幾度モヨクモ我心ヲ相改テ
確然ト定リタル御制度ヲ遵守致サテハナラヌ去ル所ニ
壹人ノ娘然ルヘキ家ニ嫁入テ致シケルカ婿トハ至極中
モ善ケレトモ兎角姑メカ無理ヲ云テ朝夕口論カ興ル故

トテモ辛抱カ出来ヌト里歩^サ行シテ親里へ返ラレタソユ
テ母モ氣ノ毒ニ思ヒ色々ト異見ヲ加テ申スニハ婿サへ
不足ニナクハ姑ノ無理ハ世ノ習ヒト明ラメテ辛抱致セ
ト云へハ娘ノ申スニハ私モ一度ヤ二度ノ事ナラハ堪忍
シテ居マセウケレトモ何分アノ様ニ毎日々々イゲラレ
テハヒダスラ辛抱カ出来マセヌト申シテ居ル内ニ一人
ノ大工新障子ヲ二枚持來テ一間ニ立附ルヲ見レハ鋸ニ
テ障子ノ縁ヲシヨキ々々ト挽切り又荒鉋ヲ掛テ削リテ
敷居ニハメルニ一向ハマラテハ又カンナヲ掛テハ削リ
何分立兼ルト荐リニ障子ノ上ヲ削リ又下ヲ削ルユト毎

度ニ及テ故媛ハ之ヲ見テ堪カク少思ヒ申スニハ其様ニ
障子計リテ削ラヌトモ一退位ハ敷居カ鴨居ノ方ヲ削テ
ハイカノテ御座ルト申シタレハ大工カ云ハルハニハ夫
ガ素人ト申スモトヨノ敷居ト鴨居ハ此家ニ元ヨリ寸法
ヲ定リテテセモトソノ元ヨリキマリノ付テ敷居鴨居ニ
跡ヨリ障子カ來テハマルノナヤ故ニ五退テモ十退テモ
ハマル迄ハ障子ノ方ヲ削ラテハナラヌト申モハ娘是ヲ
聞テ忽チ我身ノ上ノ事ニ氣カ付テ成程私モ縁ニ付タル
向テノ家ハ固ヨリ家風カキマリテ有ル夫ニ跡ヨリ私カ
嫁入シテ是非其家風ニハマラテハナラヌ身ナレハ何

邊口論カ起テモ姑ニハ過ラセラレヌイツモミモ私カ
過リテ心ニ飽テ掛サヘスレハ遂ニハハマルニ違ヒナイ
ト能キ所ニ氣カ付母ニ向テ申ス様ハ最早私モ勘考カ付
マシタ故縁家ニ歸テ辛抱致シマシヨウト申ス所ニ縁家
ヨリ迎人カ來リシ故再ヒ歸ラレタルカ其後ハ姑ト口論
ノ起ル度々ニ新障子ノ事ヲ思ヒ出シテハ我心ニカシナ
サカテテハ過マリ其アヤマル事毎々ニ及ヘハ人ニ鬼ハ
サヒト世間ノ謬ノ通りニ追々ニ姑モ殊ノ外嫁ヲ可愛カ
ル様ニナリテ終ニ其家ニ永久ノ有附ヲセラレタトアル
今モ亦其如ク今般御一新ノ制度ハ萬民保全ノ道ニシ固

ヨリ確定シテ時機ニ合セテ經綸セラレテアレハ若我心
ニ合ハヌ所カアルナラハ御制度ニ飽ハ掛ケラレヌ程ニ
幾度モミミモ我心ニカンナサ掛ケテ頑固ヲ削リ陋習ヲ
去ルトキハ終ニハ文明開化ノ新屋ニ安住シテ其身安樂
ノ場ニ至ルヘシ

役心役形

夫天地萬物ノ化生スルヤ人畜性ヲ異ニシ山獸海鱗生活
ノ食用同シカラス行步屈伸形ニ依テ類ヲ別ナテ毛羽鱗
甲ノ自由ヲ得ル事ハ皆天然ノ性質ナレハ學テ之ヲ作ス
ニ非ス教ニ依テ發スルニ非ス故ニ格物致知ノ攀緣ヲ勞

モスレテ蜘蛛網ヲ張り燕子ノ能ク巢ヲ營ム事是只役形ノ位ニシテ役心ニ依ラス人只色食ノ情アリテ飢ル時ハ血ヲ飲毛ヲ食ヒ淫情起ルキハ輒ナ相犯シ暑ニ當テハ水澤ニ棲ミ寒ニ逢テハ土穴ニ入り帳幕ヲ以テ雨露ヲ凌キ水草ヲ逐テ轉居シ只漁獵ヲ業トシ徒ニ無益ノ人力ヲ勞スルカ如キハ役形ノミニシテ役心ナキカ故ニ之ヲ野蠻ト云ヒ又禽獸ト名ク是ニ由テ人タルモノハ智思ヲ運ラシ勞事ヲ忍ヒ遂ニ天地間ノ大理ヲ窮メ大ニ知識ヲ開クトキハ機器ヲ創造シ書籍ヲ著シ蠻荒野鄙ノ俗ヲ免テ開化文明ノ盛名ヲ發スルナリ英國版圖内ノ工業昌盛ニシ

テ貨財生殖スル其根元ハ國人ニ役心役形ノ職業ニ勉強スル精神アツテ新工ノ機器ヲ發明スルニ由テ終ニ世界中ノ工業ヲシテ活潑盛大ナラシムルニ至ル玻璃ノ室中ニ光ヲ入レ寒氣ヲ外ニ鎖スモノ又衛氣ノ街衢ヲ照スモノ氣車ノ迅速ナル事ハ飛鳥モ及ハス蒸氣船ノ如キハ無風ノ大洋ヲ航シ又逆風逆潮ヲモ厭ス煉化石造ノ美屋ヲ構ヘ五層七層ノ樓上ニ自在ニ水ヲ揚ケ又一步ヲ勞セスシテ昇降シ數階ヲ隔テ、談話スル電信機ノ巧器數百里ノ書信ヲ一瞬間ニ傳ヘ碓車ヲ以テ蠶繭ノ生糸ヲ製シ輕氣球ハ遙空ニ飛揚シテ人跡ノ至ラサル高山ヲ測量シ其

外民生必需ノ器用及便利快適ノ具ヲ造リ出セル事ミナ
恒心久耐ノ役心ノ力ナリ西人ノ論義都テ人々才智ノ齊
シカラサルハ大抵ハ心思ヲ用ユルコトヲ幼稚ヨリ習ヒ
養ト習養ハサルニ關係スルナリ之ニ由テ刀查阿克來ハ
多年ノ間タ心思ヲ役シテ紡綿機ヲ造リ比耳ハ印花機ヲ
造リ維廉李ハ織襪機ヲ製シ費布士ハ下水鐘ヲ造テ海底
沈没ノ貨物ヲ引上シム又瓦德ハ牛國民ノ造レル蒸氣機
器ノ雛形ニ依テ三十年ノ心思ヲ役シテ終ニ蒸氣縮密機
器ヲ製造ス此ノ蒸氣機器ノ百般ノ用トナル事ハ其後智
工アル人相續テ工夫ヲ運ラシ機器ヲ改變シ巧妙ヲ盡シ

便利ヲ極メ遂ニ工作場ニ於テ百般必用ノ具トナレリ或
ハ之ヲ用ヒテ器機ヲ轉動シ或ハ船艦ヲ推進メ或ハ百穀
ヲ粉末ニシ或ハ書籍ヲ印刷シ或ハ貨幣ヲ製造シ或ハ鐵
ヲ鑄鍛シ削平ス中ニ於テ最モ大功ヲ爲スモノ方今ノ蒸
氣車ニ用ユル行動機器ハ托列未集ト士提反孫父子ノ工
夫十五年ノ力ニ依テ邦國ノ形象丕然トシテ一變シ民生
ノ便利世道ノ文運大ニ上進スルヲ得タリ然ルニ野蠻ノ
如キハ只情慾ヲ放ニシテ心思ヲ役セサルカ故ニ未ダ航
海ノ術ヲ知ラス家屋ヲ營造スル事ヲ知ラス四民ノ職業
ヲ開カス而モ追々進歩スルニ依テ粒食ヲ知り陶器ヲ造

リ鑛山ノ道及航海ノ術既ニ開ケテ船艦ノ自由動止轉用
ノ人工ヲ盡スト云ヘトモ半ハ天工ヲ假ラサレハ運轉ノ
自在ヲ得ル能ハス逆風逆潮ニハ港口ニ碇泊シテ徒ニ光
陰ヲ費ス等ノ事少カラス是全ク其心思ヲ役スル事ノ精
ナラス又久耐ナラサルニ依テ未タ見聞外ニ在ル所ノ天
理ト空氣トヲ知ラサルカ故ナリ今ヤ舊來ノ遊惰ヲ驚カ
シテ維新ノ良政ヲ闢キ彼國多年ノ役心ヲ年ナラスシテ
之ヲ學ヒ且折衷シテ一等ヲ進ミ終ニ開化文明ノ上等ニ
至テ萬國卓絶ノ國威ヲ海外ニ輝サントスルノ盛時ニ於
テ誰カ豈心思ヲ役セサランヤ農學商學ト云ヘモ大ニ思

慮ヲ運ラスハ十人ノ業ヲ壹人ニテ作レ十年ノ利ヲ一
年ニ得テ產物製物ノ精妙ヲ盡スニ至テハ此國大ニ富國
トナリテ神明ノ冥慮ニ叶ヒ皇國受生ノ本意此上ハアル
ヘカラス孟子ニ古語ヲ引テ人ヲ治ルモノハ心ヲ勞シ人
ニ治メラル者ハ力ヲ勞スルハ天下ノ通義ナリト云ハ
天皇ノ民ヲ治ムル事天下ヲ範圍シテ一身トス心王能ク
手足ヲ役スルノ謂ニテ天皇ノ群臣ヲ體シ庶民ヲ保ンス
ルコトハ腹心ノ手足ヲ視ルカ如シ殊ニ皇國ハ天祖ノ仁
德ヲ承襲シテ歷代ノ天皇國民ノ爲ニ夙夜ニ叙慮ヲ惱シ
萬民ヲ我子ノ如ク愛シ玉フコト一方ナラス御詠ニ高キ

屋ニ登テ見レハ煙立ツ民ノカマトモ賑ヒニケリ又雨ニ
ウキ風ニ碎ル心カナ民ノシワサノタ、安カレト又我爲
ニ何ヲ祈ラン朝ナ、民安カレト思フハカリソ又御親
翰ニハ天下億兆一人モ其所ヲ得サルキハユレ朕カ罪ナ
リト誠ニ今般御一新ノ時節ニ當テハ内億兆ヲ保安シ外
萬國ニ對峙セント夙夜ニ叡慮ヲ勞シ玉ヘハ在廷ノ君子
人材ノ官員死ヲ誓ヒ黽勉從事シテカ、ル震襟ヲ安シ奉
シカ爲ニ孜々トシテ知識ヲ開キ百方ヲ盡シ萬術ヲ究メ
テ以萬民安樂ノ道ヲ立ルノ時ニ於テハ庶民一般形ヲ役
シテ公務ヲ勉メ兵法月々ニ熟練シ稼業日々勉勵シ朝ニ

ハ露ヲ拂ヒ夕ニハ星ヲ戴テ春ハ芸リ秋ハ耕シ曠野ヲ開
拓シ桑麻蕃殖シ養蠶紡績力メテ時ヲ失ハス陶工織錦日
々ニ製物ヲ増加シ互市通販運輸怠ナク各自ノ職業ヲ勵
ミテ具サニ租稅ヲ納メ速ニ賦役ヲ務ルコト恰モ耳目鼻
口及手足ノ心王ノ爲ニ役セラルハカ如シカノ竹田機^カ楨^ク
ハ心木一本ノ仕掛ト云フ故ニ其心木ヲキリ、ト回ラセ
ハ米屋ノ親父ハ米ヲツキ扇子屋ハ扇子ヲハナ、々々吳服
屋ハ算露盤ヲカナ、々々鳴ラス如是人形ノ能クハタラク
ノハ皆心木ノクルハヌ故ナヤ今田畑ヲ作りテ自由ニハ
タラキ商方ヲ致テ利益ヲ得工業ヲ勵テ生活ヲナシ練兵

航海ノ備ヘヨリ人力車ヲ牽ニ至ル迄皆悉ク億兆一視ノ
天徳ノ然ラシムル所ナリ若此心木ニ狂ヒカ付ト萬民各
其所ヲ失フテ終ニ塗炭ノ苦ニ沈マテハナラヌ今辱クモ
萬民保全ノ道ヲ立テ、官武一途庶民ニ至ルマテ各其志
ヲ遂ケ自主自由ノ權ヲ許シ玉フニ就テハ叡慮ヲ勞シ玉
フコト一方ナラサレハ末々ニ至ルマテカ、ル震襟ヲ安
シ奉ラシガ爲勤王報國ノ忠意ヲ抽テ、朝旨ノ件々堅ク
相守リ日夜ニ職業勉強シ租稅ヲ納メテ公用ニ充テ賦役
ヲ務メテ公事ヲ行ヒ國ヲ富シ兵ヲ利シ皇威ヲ海外ニ輝
スニ至テユソ億兆安撫ノ御叡慮モ爰ニ於テカ御満足シ

玉フナラン

律法沿革

律法ハ司法省ノ刑法ナリ沿革ハ古律前定ノ大體ニ沿テ
新律ヲ改正スルナリ新律綱領改定律例及監獄則等ヲ開
テ見ル可シサテユノ律法ハ古今ニ亘リ萬國ニ通シテ暫
モ廢弛スルハ放辟邪恣競ヒ起テ人道日々ニ塞カル是
全ク人ヲシテ惡ヲ懲シテ善道ニ趣カシムルノ顯界治法
ノ大典ナリ時ニ隨テ宜テ制セスンハ有ヘカラス神代卷
ニ曰ク逆命ノ者ヲハ斬戮ヲ加ヘ歸順ノ者ヲハ褒美ヲ加
フカノ素盞鳴尊ノ罪惡ヲ犯シテ千座ノ置戸ヲ以テ罪ヲ

贖フハ今ノ律法ノ贖金ヲ科スルノ濫觴ナリ又拔爪拔髮
等ノ罰ヲ受ルハ今ノ杖罪答罪等ノ始マリナリ竟ニ逐降
ヲ底根ノ國ニ適スルハ即流罪ニ處セラル、ナリ然レハ
即ユノ刑戮ノ法ハ既ニ神代ヨリ備ハル其刑戮ノ本意ハ
惡ヲ懲ラシテ善ニ歸セシムルニアリ依之素盞鳴尊後遂
ニ先非ヲ悔ヒテ清心ニナリ玉ヘハ初ノ青山變枯カ后ニ
ハ枯山變青トナル今此古法ヲ體シテ新法十四律ヲ制シ
テ有司官員ヨリ始テ匹夫匹婦ニ至ルマテ罪ノ輕重ヲ正
シ刑ノ大小ヲ制シ或ハ死罪ニキハマレルヲ贖金ニヨリ
テ助命シ或ハ禁獄ヲ徒罪ニ替ル等ハ人皆萬物ノ靈ニシ

テソノ性必ス禽獸ニ異ナル明德ヲ具スルト云ヘトモ情
慾ノ私有テ真心ヲ昧マシ正理ニ背キ朝旨ニ戾ルユヘニ
遂ニ刑戮ニ係ル爰ヲ以テ今般格別ノ御仁政ヲ垂レ玉マ
ヒ人命ヲ重シテ懲役場ヲ設ケテ鐵鎖ノ重キヲ帶ハシメ
日々ニ懲役ヲ務ルウチニ遂ニ先非ヲ悔ヒテ本心ニ立歸
ルトキハ懲役ヲ卒ルノ后ハ又復元ノ天下一般ノ平民ト
ナリテ自主自由ノ權ヲ許シ玉フノ朝旨ナレハユソ東京
ニ於テハ懲役場ノ休日ノ内毎月三日宛佃島へ教導職ヲ
指向ケラレ懇々ニ説諭シテ改惡歸善ノ朝旨ノ所在ヲ知
ラシムルハ誠ニ有難キ御仁政ニアラスヤ然ハ各佃島ノ

罪人ニ先ヲトラレテハスマヌ程ニヨク、説教ヲ聽聞シ
テ一日モ早ク文明ノ御旨趣ヲ仰カスンハ誠ニ寶ノ山ニ
入テ手ヲ空クシテ歸ラシニ似タル者ナリ拙者昨年福岡
縣ノ百姓一揆ノ時黨民説諭ノ爲ニ派出致シタルニ飯塚
ノ明正寺ニ於テハ寺ノ後口ニ舊知事公ノ御茶屋有リ此
節糺彈捕縛中ノ事ナレハ右ノ御茶屋ニ於テハ賊民ヲヒ
ドキ責ヲ致スニ其泣キ聲カ聞ユル時拙者ハ本堂ニ於テ
諸人ヲ集メテ御法主御直諭ノ趣ヲ傳ヘテ説得ヲ致スト
キ一首ノ歌ヲ引テ諭シタルユトアリソノ歌ニ父ハ呵リ
母ハ抱テサトセルヲ替ルユ、口ト子ヤ思フラン是ハ司

法省ノ刑罰ハ父ノ呵ルカ如ク御法主ノ説諭ハ母ノ抱テ
サトセルカ如ク然ルヲ各方此度ノ算露盤責等ノハケシ
キ御シラベテ見テ天朝ノアマリ無慈悲ナル様ニ思ハレ
ウカ左ニアラスサトセル母ノ教部省モ慈悲心ノアマリ
呵レル父ノ司法省モ慈悲心ノ深キトエロエリ或ハ呵リ
或ハサトシテ何レ一度ハ皇國ニ生レタル人民ノ大和魂
ヲ失ハヌヤウニ性根ヲ入レ替テ惡ヲ改メテ善ニ歸セヨ
トノ朝旨ナレハ假初ニモ天朝ニ對シテ不足杯ヲ申ハ實
ニ勿体ナキユトナリ畢竟スルトコロ此度ノ御一新ニ付
テ各方ノユ、口ニ疑惑カ有ルユヘニ其惑ヨリ業ヲ生シ

テ或ハ竹鎗ヲ以テ障子襖ヲ破リ或ハ電信線ヲ切り或ハ
區戸長ノ家ヲ毀テ或ハ新平民ノ家ヲ燒キ拂ヒ或ハ官員
ヲ殺ス等ノ逆惡ヲ起スユヘニ此ノ我レカナシタル業ヨ
リ必ス苦ヲ生ス算露盤責ニ懸ルモ七十咎敲カレルモ徒
罪ニ處セララルモ絞リ首ニ逢モミナ自業自得ニシテ人
ヲ怨ルニアラス皆我業ヨリ我カ苦ヲ受ルト思ハテハナ
ラヌ天照大神皇孫ヲ此葦原ノ中ツ國ノ主トセント思召
ニ其時此日本ヲ大日貴尊カ管轄シテ御座ラセラレタソ
コテ此大日貴尊ニ此國ヲ速ニ皇孫ニ渡サレル様ニト談
判ノ爲諸ノ神ト御評議ノ上第三番目ニ天稚彦ト云テ御

使者ニ立ラル、其時高皇產靈尊天稚彦ニ天ノカゴ弓ト
天ノ羽々矢ヲ賜ハリテ使ハサレタ其時大日貴尊ノ娘下
照姫ト云テ下サルト天稚彦モ妻ノ愛ニ溺レテ忠義ヲ忘
レ吾モ亦大日貴ニ隨フテ此日本ヲ治メント遂ニ八年ヲ
經レドモ報命セス此時ニ天ニ於テハ高皇產靈尊ヲ始メ
天稚彦カ久布ク返ラサルヲ怪ミ探索ノ爲ニ无名雉ヲ使
ハスソコテ无名雉天下リテ天稚彦カ門前ノ桂ノ木ニ羽
ガヒテ休メ事ノ様子ヲ伺フテ居タルニ探女コノ鳥ヲ見
テ大ニ怪ミ家ニ入テ天稚彦ニ告クル天稚彦預テ心口ニ
一物アレハ大イニ胸サワキ致シ忽テ天ノ鹿兒弓ト天ノ

羽々矢ヲ取テチヲヒチスマレ雉ヲ射ルニ其矢キシノ胸
ヲ射トオシテツウツト天ニ上リテ高皇產靈尊ノ前ニ至
時ニ高皇產靈尊其矢ヲ取リテハテアヤシヤナ此矢ハ昔
我天稚彥ニ賜シ矢ナリ而モ此矢サキニ血ノ付タルハ心
得ス是ハ定テ國津神ト相戦ヒアルヤ何ハトモアレ黒心
アルモノニ此矢ハ中ルヘント其儘矢ヲナケテロシ玉フ
ト其矢忽ニ下リテ寢所ニ至リ天稚彥カ胸先ニ中ル天稚
日子ハ寢込ニ胸板ヲ射ヌカレ七頭八倒ト苦シミケルカ
立所ニ命終ラレタハ是又神明ノ勸善懲惡ノ教ヲ垂レ玉
フモノニテキシヲ射タル矢カ天ニ上リタルハ惡事ヲナ

ス時ハ必ラス天ニ徹ルノ意ヲ顯シ高尊之ヲ投ケ玉フハ
善惡賞罰ノ主宰ハ神明之ヲナシ玉フコトヲ顯ス然レモ
其業ノ出ル所ハ己レニ有リ雉ヲ射タル矢ガ復來テ吾命
ヲトル汝ヨリ出タル者ハ又汝ニ歸ルノ道理ニシテ自業
自得ノ天罰道ルノ事能ハス今黨民ノ銘々刑法ニ行ハレ
レモ又復斯ノ如シ朝官ニ戻テ一揆ニ乘レ人ノ視障子ヲ
突破リタル竹鎗カ忽チ變シテ杖トナリ答トナリテ復我
尻ヲ打レテハ裸體七十ノ泣聲ヲ發シ或ハ土藏ノ戸ヲ打
破リタル斧カ鐵ノ鎖トナリテ三年ノ重苦ヲ受ケ區戸長
ノ家ヲ毀ナタル一日ノ惡業カ遂ニ報フテハ徒刑七年ノ

難行トナリ柄扱一杯ノ冷酒ハ貳圓貳拾五錢ノ高價トナ
リテ妻子ノ衣類マテ質ニ入ルノ貧苦ニ及フコト皆我
自業ノ爲ス所ニシテ上ヲ怨ムヘカラス嗟呼怖ルヘキハ
因果應報ノ理ナリ慎ムヘキハ悖戾ノ罪ナリ今世ニ於テ
ハ王法ノ刑戮ニ處セラレ來世ニ於テハ自然ノ三途無量
ノ苦惱アリ其中ニ展轉シテ痛ミ言ヘカラス

國法民法

今般御一新ニ就テ國法及民法ヲ改正スルコトハ容易ナ
ラサル事件ニシテ忝モ天皇陛下正院ニ臨御マシムコト
萬機ヲ惣判シ三大臣是ヲ補弼シ内閣議官ノ君子是ヲ議

判シテ其得失緩急ヲ審案シ行政實際ニ付スヘキモノハ
奏書ヲ允裁シ而シテ后制度條例ミナ是ヲ帝國一般ニ布告
シ玉フ其法ヲ立ルヤ天然ノ正理ニ則リテ古今ヲ斟酌シ
國體ヲ失ハスシテ西洋ノ究理實踐ノ法ヲ取捨シ時ニ隨
テ宜ヲ制シタルカ皇國ノ國法民法ナリ此法カ能ク天下
ニ行ハルモノハ三事具足スルカ故ナリ三事トハ一ニ
ハ震襟ヲ伏承スルカ故ニ二ニハ朝議ヲ確定スルカ故ニ
三ニハ正理ノ性法ニ順スルカ故ニ中ニ於テ國法ト民法
トヲ別ツ所以ハ國法ハ朝廷上ニ於テ三院十省ヲ立テ
省々ノ司ル所ヲ定メ官位兵制秩祿租稅造幣條約等ノ政

府ト臣民及外國トノ間ニ於テ行フ所ノ法ヲ立ルヲ惣テ
國法ト云民法トハ民間ニ於テ相互ニ守ルヘキ百般ノ憲
法ヲ定ムルヲ民法ト云今其中ノ一二ヲ舉テ民法ヲ立ル
ノ朝旨ヲ窺フニ或ハ證券印紙ノ規則ヲ定ムルカ如キハ
朝廷上ニ關係スル事ニハアラヌユレハ民ト民トノ間ニ
於テ信義ヲ失ハサラシメンカ爲ナリ又青燈紅燈白燈ヲ
別テ船路ノ自在ヲ得セシメ寺院ノ什物ヲ記載連印スル
ハ永ク寺寶物ヲシテ散失セサラシメンカ爲等ナリカ
ル民法ヲ立玉フモノハ萬民ヲ子ノ如ク思召ス至仁ノ御
政道ナレハ深ク敬慮ヲ感戴シテ仰信スヘキ事ナレドモ

愚民ハカ、ル洪大ナル天恩ヲモ辨ヘスシテ動モスレハ
疑惑ヲ生レテ却テ新政ヲ忌ミ時々御布告ノ趣ニ不足杯
申スハ親ノ慈悲ヲ以テ種々ニ子ノ世話ヲ致スヲ子ハ却
テ之ヲ忌ミ不足ヲ云テ用ヒサルカ如シ實ニ勿體ナキユ
トナリスヘテ君子ノ大事ヲ天下ニ施行スル時ハ小人之
ヲ見テ初ハ必ス之ヲ疑フ其疑フ所以ンハ我知識ノ及ハ
サル所ナルカ故ニ次ニハ之ヲ信スル其信スル所以ハ明
者ノ説諭ニ預ルカ故ニ後ニハ必ス之ヲ仰ク其仰ク所以
ハ既ニ利用快適ノ實地ヲ踐テ至仁ノ君恩心肝ニ徹到ス
ルカ故ニ一例ヲ舉テ申サハ一昨年ノ御布告ニ僧侶ノ銘

々ニ釋氏ヲ廢シテ俗姓ヲ附ケヨトノ公布アリシ時大ニ
疑惑ヲ生シ最早佛法モ危急存亡ノ大關節ナレハ定テ是
ハ佛ヲ廢シ僧ヲ還俗セシムルノ朝旨ナラント諸宗舉テ
猶預ノ心ヲ懷ケル中ニモ或ハ釋氏ヲ改ムルヲ忌ミテ會
議ヲ設ケタル事モ新聞紙ニ見ヘタリ爰ニ於テ我輩モ亦
退テハ陋習ヲ去リ進テハ朝旨ノ所在ヲ窺ヒ奉ルニ斯ル
萬國對峙ノ盛時ニ於テハ普ク日本人種ヲ統括シテ唯一
般ノ人民トシテ以テ舊來抑制ノ陋習ヲ遣去セント欲スル
カ故ニ四民一同ニ苗字ヲ許シテ天下一般ノ民權ヲ施ス
時ハ僧侶豈獨印度姓ナラシヤ是即億兆一視ノ仁風ノ起

原ナリト疑ヒ晴レテ朝旨ヲ信スト云ヘドモ未天恩ヲ感
服スルニ至ラス四姓出家同稱釋氏ノ習慣ヲ免レソノ
後更ニ外教許不ノ議論中ニ佛法モ亦外教ナラスヤノ責
ハ往古ヨリ是アリト云ヘトモ經ニ我法東漸ノ識說アリ
地ニ轉法輪處ノ眞蹟有テ日域歷代ノ天皇佛法ノ勸善懲
惡ノ道ヲ探テ以テ內教ヲ圓成シ來ル事久シ夫旣ニ深テ
以テ是ヲ皇國ノ教法トスル時ハ即是日本教ニシテ印度
教ニハアラス故ニ知ル神裔タルノ日本人ニシテ宜ク之
ヲ弘宣スヘキナリ猶シ儀狄始テ酒ヲ製スレドモ傳來シ
テ和國ニ於テ之ヲ製造スレハ即チ是日本酒ナルカ如シ

爰ヲ以テ今般僧侶ノ銘々ニ苗字ヲ許シテ而後ニ皇國ノ
布教傳道ノ職ヲ掌ラシメ玉フハ偏ニユノ教法ヲシテ久
住セシメンカ爲ノ聖旨ヲ開解シテ忽チ天恩心肝ニ徹到
シテ初怨望シタル事ノ恥サ惶怖サ爰ニ於テ誰カ豈勤王
殉國ノ忠意ヲ增長セサランヤ斯ル難有萬民保全ノ御制
度ハ僧侶苗字ノ事ノミニ非ス凡百ノ事件皆此通りニテ
初ハ愚ニシテ疑ヲ生シ腹非怨望スト云ヘトモ追々説教
懇諭ノ開解セシムルニ由テ惑ヲ解キ信ヲ生ス後終ニ我
身ニ其快適ノ實地ヲ踐テ大ニ至仁ノ天恩ヲ仰クニ至ヘ
シ今其二三ヲ掲テ之ヲ諭サン或ハ乞鉢廢止ノ公布ヲ見

テ初ハ貧僧ノ生活ヲ閉塞シテ僧侶ノ屢脚ヲ擧カト疑ヒ
次ニ文明開化ノ時節ニ於テ醜態ヲ忌ムノ朝旨ナル事ヲ
信シ後終ニ維新ノ王化ニ沐浴シテ一視ノ仁德ヲ感戴ス
ル時ハ是偏ニ教導職タル者ハ威儀嚴重ナラサレハ世人
舉テ尊崇セス世人尊崇セサレハ所説ノ法モ亦隨テ尊カ
ラス之ニ依テ今般外國ノ教師ニ對シテマス々日本ノ
教法ヲ盛大ナラシメント欲スルノ朝旨ヲ仰クニ至テハ
誠ニ罔極ノ皇恩真心ニ徹到スヘシ其外或ハ畜妻噉肉ヲ
許シテ律法ノ條例ヲ省キ僧侶ノ犯罪顯處刑ノ醜態ヲ
シテ尠カラシメ或ハ電信機迅速ノ功力ニ依テ東京詰ノ

我兒ノ無恙ヲ知テ積累ノ憂悶ヲ去リ速ニ四方米價ノ高
低ヲ知テ賣買ノ大利ヲ得邊境遐邦ノ賊徒ノ興ル時ハ本
營ノ出兵速ニシテ庶民動搖ノ難ヲ免レ或ハ燈明臺海標
ノ功力ニ由テ海路ノ難船ヲ遁レ或ハ蒸氣車ノ功力ニ由
テ親ノ臨末ニ逢テ慇懃ニ遺訓ヲ蒙リ或ハ圓札番号ノ功
力ニ由テ紛失ノ紙幣再ヒ我手ニ入ル等ノ御仁政ノ御慈
悲カ我身ニ徹底シタル時ハ心ノ底ヨリ先非テ悔ヒ過テ
改テ皇恩ヲ仰クヘシ佛道ニテハ之ヲ懺悔ト名ケ神道ニ
テハ之ヲ稜除ト名ク懺悔ハ能ク罪ヲ滅ス朝廷豈既往ヲ咎
ンヤ早ク忠意ヲ抽テ、開化ノ域ニ進歩スヘシ東京ノ如

キ輦下ニ近キ人々モ陋習未開ノ輩ハ最初金札發行ノ時
ハ大ニ朝政ヲ疑テ申スニハ最早日本ニモ十三年ヲ限リ
トスルナリ鐵路ヲ開造シテハ日本ノ正眞ノ金銀ヲ外國
人ニ委シ蒸氣船ヲ買ヒ船師ヲ雇ヒ其外兵備機械等悉ク
洋器ヲ求メ舶來ヲ重ンシテ金銀終ニ滅盡スル事近キニ
在リテ日本ニ殘ルモノハ只紙計リナラント夫ヨリ或ハ
古金銀ヲ藏シ或ハ耳白寬永ノ青錢ヲ貯ヘシ者モマ、之
アリシカ維新ノ制度漸々ニ開ケ既ニ鐵路モ落成シテ氣
車ノ速疾ナル事ハ三十分ヲスギス運賃ノ低キ事ハ步行
ノ茶資ヨリモ少シ千萬圓ノ貨幣モ之ヲ懷ロニシテ駄ス

ルニ及ハス新架ノ數百橋便利ヲ究メ煉化石造ノ美觀ハ
外都ニモ減セス外國金ノ輸入ハ年ヲ逐テ盛リ日々ニ王
化ニ沐浴シテ終ニ舊來ノ疑惑ヲ晴ラシ預テ貯ヘ置シ青
錢等ヲ出レテ物價ニ投與セントスレハ人皆青錢ノ重キ
ヲ嫌フテ強テ紙幣ヲ望ム爰ニ於テ服非怨望ノ昔ヲ悔ヒ
朝旨ヲ信シテ天恩ヲ仰キ一日モ早ク我身安穩ノ樂境ニ住
シテ敬神ノ誠意ヲ貫キ共ニ赤心ノ忠節ヲ盡シテ其身
ノ生涯ヲ全フスル事豈耽シカラヌヤ

産物製物

夫天地アレハ萬物生ス萬物既ニ生スルトキハ聖賢必其

間ニ出テ、生活ノ道ヲ開ク人間生活ノ道タルヤ互市交
易ヲ以テ始テ禽獸ニ異ナル樂境ニ處スルコトヲウルソ
ノ互市交易ノ物タルコト只産物製物ニ在リ未タ互市利
ヲウルコトヲシラス産製ノ精粗ヲ辨セサル之ヲ蠻夷ト
云追々ニ人智增長シテ鑛山ノ道ヲ知り航海ノ術ヲ學シ
テツイニ産製ノ業ヲ營ムニ至ルトキハ漸ク一級ヲ進テ
未開ノ國トナル更ニ進テ産製ノ業精密ニナリ山ニ産ス
ルノ金銀銅鐵ヲ掘テ之ヲ製造シ海ニ産スル魚鼈珠玉等
ヲ採テ裝飾ヲ爲シ更ニ山野ヲ開墾シテハ桑麻ヲ蕃殖シ
海潮ヲ關閉シテ田界ヲ擴メ陶冶奇工ヲ第メ織縫美ヲ盡

シ家屋櫛比人民日々ニ繁茂スルトキハ開化ステニ半ヲ
越ルト云ヘドモ未ダ他國ト廣ク交誼ヲ結ンテ產物製物
ノ輸出スルナキトキハ吾國ニ餘レルモノアリテ之ヲ關
クニ怠リ之ヲ製スルニ倦ムカ故ニ自ラ遊民少ナカラサ
ルコトヲ得ス又吾國ニ足ラサルモノアリテ徒ニ物價騰
貴ニ及フコトアリ是ヲ以テ今般大ニ互市交易場ヲ開テ
地理ニ隨テ產物ノ精粗ヲ博覽シ先蹤ノ妙術ヲ學テ製物
ノ奇工ヲ盡シテ職業勉勵スルトキハ國ニ遊民ナクシテ
遂ニ萬國ノ貨幣大ニ輸入シテ吾國ノ富強ナラシムコト日
モ亦一日ナルベシ然ルニ頑民ハ貿易ノ利ヲ悟解セスシ

テ國產輸出ノ解禁ヲ怨望シテ曰カ、ル有難キ神國ノ膏
米ヲ外國ニ輸出スル故ニ米價騰貴シテ貧民甚ダ困乏ニ
及フト是誠ニ小人ノ論ナリ然ル所以ハ吾國ノ豐年ニハ
國民常食ノ餘剩ヲ以テ輸出スルトキ米價騰貴スル程外
國ノ金ノ日本ニ入ルコト亦ソノ夥キコトヲ得ル然レモ
愈騰貴ニ及フトキハ支那印度ノ米穀瞬間ニ輸入シテ先
ノ騰貴ナルモノ却テ低價ノ媒トナリテ貧困モ餓死ニハ
至ラス是則貿易ノ利アル所以ナリカ、ル愚論ヲ巷議ス
ル暇ヲ以テ我身ノ職業ヲ勵シ中ニ於テ商方ノ拔羣ナル
モノハ早ク自由ノ權ヲ專ラニシテ或ハ上海ニ至テ開店

シ或ハ倫敦ニ渡リテ絹布木綿ノ反物店ヲ出シ又日本ノ
燒物店ヲ出シテ殊ノ外ノ繁榮ニ及テ日々ニ銀錢ヲウル
コト巨萬ニ滿ツルニ至ラハ吾國ノ豐饒豈ニ外國ニ讓ラ
ンヤ依之上ノ國家ヲ思召スユト一子ノ如ク憐念シ玉ヘ
ハユソ製術ニ精妙ヲ得タル外國ノ奇方ヲ悉ク採用シテ
人勞ヲ助ケンカ爲ニ莫大ノ金子ヲ費シテ異邦ヨリ師範
ヲ雇イ製鐵場ヲ開キ養蠶場ヲ設ケ活字版及茶製ノ法マ
テ聊カニテモ民間ニ便利ナルコトアレハ忽テ御布告ア
ラセラレテ產物製物ニ於テ十人ノ勞ヲ三人ニテ作爲シ
三年ノ業ヲ一年ニ成就スルヤウニト何カラ何マテ御意

ヲ附玉フコトナレハ各方一日モ早ク陋習ヲ去リテ朝旨
ヲ仰キ怨望ヲ過ツテ德化ヲ感戴シテ產物ヲ盛ニシ製物
ヲ鍛鍊シテ互市通販日々ニ繁昌セハ一ツハ叙慮ヲ安シ
奉リ一ツハ我身安穩ノ樂地ヲ得テ遂ニハ神明ノ御守護
ヲ蒙ルコト疑ヒアルヘカラス

制可隨時

制ハ制度ニテ天下治世ノ道ニ於テ國法及民法ノ百般ノ
事ヲキリモリテシテ之カ規則ヲ定ムルヲ云フ隨時トハ
ユノ制度ハ民ヲ新ニスルノ法ナレハ四時ノ循環スルカ
如ク其ノ時機ニ應シテ宜キヲ制セスンハアルヘカラス

春ハ草木芽ヲ生シ夏ハ枝葉繁茂シ秋ニ入テ菓ヲ結ヒ葉
落テ散リ終ニ冬藏シテ水凍リ雪降ル如是キ天地變化ノ
理ニ依テ萬物モ亦生々化々スルコトヲ得ル只春ハカリ
ニテ秋ナキ時ハ實ヲ収ムルコトナシ又秋計リニシテ春
ナキ時ハ草木ヲ生スル時ナシ餘邪子ト云ヘル者ノ願ヒ
ニ一生八月常月夜ト申シタルハ成程大陰曆ノ八月ハ米
モ出來菓實モ熟シ暑カラス寒カラス月モ格別ニ鮮ナレ
ハ我一生涯ハ夏モ冬モナクツモ八月計リニテ而モ閏
夜ノナヒ様ニト願タルガ若コノ願ヒ通りニナラハ麥ヲ
蒔ク時モナク苗代ヲ踏ム時モナシ稻ヲ種ルコトモナラ

ス木ノ芽モ生セス枝葉モ榮ヘスシテ大ニ四時循環ノ正
理ヲ失フ今各モ制可隨時ノ理ヲシラスシテイツ々マ
テモ舊來ノ制度ニ陋習シ交易ヲ嫌ヒ介居ヲ甘シ知識ヲ
開カス舊記ヲ推シ立テ機械粗ニシテ徒ラニ無益ノ人力
ヲ勞スル者ハ即チ當時ノ餘邪子ナリ中庸ニ曰生乎今之
世反古之道如此者裁及其身者也ト是ハ時勢變更ノ天理
ナシラス頑固陋習ニシテ舊記ヲツノリテ皇政ニ戻リ開
化セサル者ハツイニ絞斬徒答ノ裁ニ係ルヲ云フナリ何
事モ時ソトオモヘ夏來テハ錦ニマサル麻ノ羽衣イカホ
ト我カ好キタル小袖モ時ステニ夏ニナレハ之ヲ脱キテ

麻ノ帷子ヲ着テハナラヌ此ノ時機變更ノ理ハ世間ノ上ニ於テモ時々ノ流行ユトアリテ女ノ髮ノ結ヒ風モ時代ニヨリテ替ルカ如ク或ハ帯ノ幅カ狭フナリ或ハ又帯ノ幅カ廣フナリタツト頻リニ廣フナリテ乳マテモ届ク様ニナル又羽織ノ短ヒカ流行ルカトオモヘハイツノ間ニヤラ時代カ替ハリテ羽織カ長フナル中古女ノ領カ二本足テアリタルカ其後三本足ニソルユトカ流行タツト京モ田舎モ三本足カ大流行ニナリテ追々ニハ四ツ足ニモナラン程ノ勢ヒテアツタ如是ク時機變革ノ理ハ天地間ノ常勢ナレハ今般三百年來ノ遊惰ヲ策ツテ時ニ隨テ諸

制ヲ改メ玉フユトハ親ノ子ノ爲ニ新衣ヲ授クルカ如シ又當世向ノ新宅ヲ結構シテ移住セシムルカ如シ然ルテ子ハ猶舊屋ニ執着シテ之ヲ喜ハスンハ豈親ノ慈恩ヲ知ル者ト云ヘケンヤユノ度新度ヲ制シ玉フハ誠ニ萬民保全ノ道ヲ立玉フ至仁ノ御趣意ナレハ誰カ豈カ、ル王化ニ沐浴シ陋習ノ垢ヲ洗濯シテ文明開化ノ新域ニ安住セサランヤ

道不可變

今般更始維新ノ良政ヲ垂玉ヒ在廷ノ君子萬機ヲ公論ニ決シテ舊弊ヲ革除シ百度爰ニ改ルト云ヘトモ皇國固有

ノ大道ハサラニ變スヘカラスソノ固有ノ大道トハ何ソ
ヤ古今不易ノ忠孝ノ道是ナリ然ルニユノ忠孝ノ名言ハ
漢土ノ名目ニテ人皇十六代ノ時ヨリ始マルニ似タレト
モ是ハ道體カ漢土ヨリ來ルニハアラス只皇國固有ノ道
ニ漢文字ヲ樹ヘタルモノニテ若其道體ヲ論スレハ漢和
同日ニ非ス彼漢土ノ如キハ忠孝代々ニ變革ス堯崩シテ
三年ノ喪終テ舜堯ノ子ノ丹朱ニ讓テ自ラ南河ノ都ニ避
タレ_レ天下諸侯ノ朝覲訟獄堯ノ子ニ之スシテ舜ニ之ク
舜崩シテ禹又舜ノ子ノ商均ニ讓テ陽城ニ避タレ_レ天下
ノ民又禹ニ隨フ事舜ニ隨フカ如シ父ハ周ノ民タリ子ハ

秦ニ服事シ孫ハ漢ニ事ル時ハ孫ノ事ル所ノ君ハ子ノ敵
タリ子ノ事ル所ノ君ハ父ノ寇タリ宋ノ遺民蒙古ニ服事
シ明ノ殘臣韃靼ノ粟ヲ食フカ如キハ君臣ノ名分正シカ
ラス大義紊ルカ故也然ルニ今皇國ハ天神天祖基ヲ開
キ教ヲ立テ古今不易ノ忠孝ノ道義ヲ以テ祭教一致ノ鴻
規ヲ定メ玉フトキハ父ハ以テ子ニ傳ヘ子ハ以テ孫ニ傳
フ志ヲ繼キ事ヲ述ルコト千百世ト云ヘトモ猶シ一日ノ
如シ之ニ依テ此ノ國ノ臣民タルモノハ假初ニモ君ヲ後
ロニスルトキハ祖先ニ對シテ不孝トナリテ忽チ大神ノ
教ニ背クカ故ニ顯界ニ於テハ斬絞杖徒ノ刑戮ニ處セラ

レ幽界ニ有テハ神明之ヲ照見シテ現罰遁ル、コト能ハ
ス彼ノ素盞鳴尊ハ天照大神ノ御田ヲ作り玉フトキ春ハ
重播種子トハ一度種ヲ蒔タルニ復重子ヲ種ヲ蒔テ苗ノ
生立ヲ妨クル事ナリ又毀畔トハ畔ヲ切り放テテ田ノ水
ヲ乾スナリ秋ハ放天斑駒使伏田中トハ田ノ中ニ駒ヲ追
ヒ入テ實タル米ヲ傷ヒ破ルナリ又捶籤トハ或誓ノ義ニ
稻串ヲ拵ヘテ實リタル稻ヲ漕キ取ル事ナリ又天照大神
ノ新嘗ノ宮ニ送糞然レトモ大神ハ只仁徳ヲ守リテ更ニ
憤激シ玉ハザリシカ或時大神機殿ニ在シテ神衣ヲ織リ
玉フトキ素盞鳴尊之ヲ見テ天斑駒ヲ剝ニハキテ張ヲ穿

テテ投納ル、此ノ時天照大神驚玉ヒテ梭ヲ以身ヲ傷メ
レム此ニ由テ大ニ愠リ玉ヒ天ノ石窟ニ幽居玉フ夫ヨリ
八十萬神天ノ安河邊ニ會合テ色々御評議ヲナサレ遂ニ
深キ謀ユトニ依テ大神再ヒ石窟ヲ出玉フタ事ハ神代卷
ニ昭晰タリ夫ヨリ諸神達カ素尊ノ罪科ヲ行フニ千座置
戸ヲ以ストハ罪ノ贖物ヲ千ヶ所ニ置ク事也夫ヲモマダ
贖ヒ足ラヌ故ニ髮毛ヲ拔キ又手ノ爪ヲ拔キ又足ノ爪ヲ
拔ク而シテ后ニ根ノ國ニイテト追ヒ拂ヒ玉フト素尊ハ
只獨リ大雨ノ降ル時青艸ヲ以テミノ笠トシテ宿ヲ乞ヒ
タマヘトモ誰以テ宿ヲ借ヌ者ナシ是ニ於テ素尊忽テニ

先非ヲ悔ヒテ本然ノ靈德ニ歸シ清心トナリ玉フ是即テ
改惡歸善ノ拔除ノ根本ナリ然ラハユノ素尊ハ善神ナリ
ヤ惡神ナリヤト云ニ此素尊ハ大神ノ弟神ニシテ誠ニ善
神ナリ何故ニ如此ノ惡事ヲ作り玉フヤト云ニ是ハ今日
我等ガ造ル實惡トハ同シカラス是ハ神明ノ大悲身ヲ捨
テ命ケテ棄テ國民ノ爲ニカヽル惡相ヲ示視シテ勸善
懲惡ノ教ヲ立テ玉フ皇國大道ノ根本ナリユノ尊ハ金德
ノ神ニシテ青山ヲ變枯トシテ勇氣強キ故ユノ勇甚タ過
ルトキハ如此ノ惡事ヲ爲セトモ終ニ本心ニ立歸ルトキ
ハ又枯山變青トナス故ニ後竟ニ清心ニナリ玉ヒテ日本

大八洲ニ杉ノ木ヲ植ヘ楨ノ木ヲ植ヘ楠ノ木ヲ植ヘ檜ヲ
植ヘ其外八十種ノ菓樹ヲ悉ク植ヘテ今ニ於テ人ミナソ
ノ恩賴ヲ蒙ラサルハナシソノ初惡ヲ作りテ刑戮ニ係リ
玉フタハ今日ノ各方エ男子タル者ハ己カ勇悍ニ誇リテ
醉狂ヲ發シ或ハ人ヲ打擲シ或ハ竹鎗ヲ以テ一揆ヲ起シ
人ノ田ノ水ヲ引キ壁ヲ切り破リテ盜賊ヲ致ス如此ノ惡
事ヲナス時ハ必スソノ報ヒヲ受ケテ或ハ算露盤責ニ逢
ヒ或絞リ首ニ逢テ大苦ヲ受ケテツイニハ根ノ國ニ行テ
ハナラヌ程ニ皆々早ク過テ改メテ本然ノ靈德ヲ研キ出
セトノ誠ヲ垂レ玉フタモノナリ又伊弉册尊ハ御柱ヲ旋

リ玉フ^キ陽神ニ先立テ女神ノ聲ヲ發シ玉フハ陰陽ノ理ニ背ク故ニ終ニ蛭子ノ惡子ヲ産ミ玉フ是ハ女子ニ對シテ神明ノ教ヲ立玉フタモノナリ男ハ陽ニシテ女ハ陰ナレハ陰ハ陽ニ從フヲ以テ天ノ正理トスル故ニ此ノ理ニ背テ家ノ内ニ於テ女カ出シヤバルト牝鷄ノ晨スルハ其家ノ索クルナリトアリテ遂ニ神明ニ見離ナサレ或ハ惡子ヲ産ミ或ハ兒ノ命ヲ夭ク或ハ家ニ災難起リテ遂ニ家門滅亡ニ及フ程ニ女タルモノハヨク々々身ヲ慎ミ男ニ隨テ貞道ヲ守レトノ神明ノ教ヲ遺シ玉フカ皇國固有ノ大道ニシテ其御布告ノ令命ハ新ナリト云ヘトモ此道ハ

カリハイツ々々マテモ變スベカラス

說教良材集下

權利義務

權利トハ身ノ行フ所ニ於テ塞ル所ロナク我ニ於テ利益
ヲ得ルヲ云義務トハ信義ヲ厚クシテ務メテ人ニ得ル所
アラシムルヲ云コノ權利義務ノ道ハ五倫ヲ明ニスルノ
常法ニシテ上下左右一切ニ通シテ能ク一日モ權利ト義
務トナ欠クトキハ人道茅塞レテ禽獸ニ異ナル事ナシ先
ツ上ノ權利ト云フハ一天ノ君トナリテ萬民ノ上ニ位シ
百官從事シテ朝威ヲ輝シ四民各力ヲ勞シ之カ租稅ヲ取
入シ之ニ賦役ヲ務メシムル是ヲ權利ト云義務トハ有司

ニ八月給ヲ與ヘ等級ヲ許シ四民夫々ノ職業ヲ許シテ生活上ニ於テ差支ノナキヤウ賊盜ヲ防キ不義ヲ正シテ大ニ民ノ保護ヲナシ玉フカ上ノ義務ナリ又下ノ權利ト云ハ政府ニハ勅奏判ノ官位アリテ名分ノ等級ヲ匡シ月給ヲ取テ權限ノ自由ヲウル四民各己カ職業ヲ專ラニシテ天ガ下ニ於テ差支ナク我生活ノ自由ヲウル是カ權利ナリ又カヽル自由ノ權利ヲウルコトハ皆ナ悉ク君恩ナレハ形ヲ役シテ租稅ヲ納メ精忠ヲ抽テ、公事ヲ務ル是カ下ノ義務ナリ又臣民相互ヒニ權利義務ノ道アリテ人倫明ナル事ヲウル亭主ハ奴婢ヲ朝夕自由ニ驅使スルノ權

利アルカ故ニ又ソノ奴婢ニ給金ヲ與ヘ之ヲ養ヒ惠ムノ義務カナケレハナラヌ奴僕ハ又給金ヲ取テ養ル、ノ權利アル故ニ裏表ナク家事ヲ務テ亭主ヲ敬スルノ義務カ無ケレハナラヌ如是ク父子ノ間ニモ夫婦ノ間ニモ兄弟朋友ノ間タニモコノ權利ト義務トカ互ニ相行ハル、トキハ人道明ナルコトヲ得ヘシ然ルニ舊來ノ制度ノ如キハ諸侯ノ威勢強クシテ下民ヲ抑制シ人牙アリト云ヘトモ門地ニ非サレハ高官ヲ許サス會議ニ參與セシメス官武一途諸民ニ至ルマテ其志ヲ得セシメサルカ如キハ權利ノ大過ナリ德川ノ律書ニ云足輕體ニ候共輕キ町人百

姓ノ分トシテ法外ノ雜言等不届ノ仕方ニテ止ムヲ得ス
切殺レ候者ハ吟味ノ上紛無之候ハ、構ヒ無之候事如是
ク武威ノ大過小事ニ依テ人ヲ切殺レテモ構ハサルニ至
ル事誠ニ舊來ノ大弊ナラスヤ又公家雨漏リ遊民國ニ充
テ民ニ職權アリト云ヘドモ之ニ悉ク租稅ヲ納メシメサ
ルカ如キハ權利ノ不及ナリ公政ステニ如是ク權利ノ中
道ヲ行フ事ヲ得サルカ故ニ下民ニ於テモ亦弊害隨テ起
リ貸シタル金錢ヲ取ル事ヲ得ス或ハ又力ニ任セテ無理
取テ致シテ喧嘩傷殺等ノ弊害尠ナカラスメトヘハ妻ヲ
教訓シ自由ニ之ヲ給仕セシムルハ夫ノ權利ナントモツ

イニ猛威ヲ奮ハシテ之ヲ打擲シ或ハ是ヲ蹂躪スル等ノ
如キハ權利ノ過ナリ又一生只女房ノ手鏡ヲ提テ我自由
ヲ得サルカ如キハ權利ノ不及ナリ又或ハ馬ニ重荷ヲ負
セテ出津スルカ如キハ馬ヲ飼フ人ノ權利ナレモ歸路ニ
復ソノ馬ニ我身ノ乗テ返ルハ權利ノ過ナリ然ラハ馬ニ
モ義務アリヤト云ニソノ馬ノ驅使セラル、ハ義務ニ似
タレトモコレハ馬ノ義務ニハアラス只馬ニ任セテオケ
ハ畜生ハ義務ヲ知ラヌ故ニ只水草ヲ飲食スル計リテ田
畑ヲ耕スコトモナク荷物ヲ運輸スルコトモナシ依之權
利義務ハ禽獸ニ異ナル人倫ノ大道ナルコト炳カナリ乃

テ是權利義務ノ中和ヲ行ヒ玉フカ今般御一新ノ良政ナ
リ殊ニユノ皇國ハ神代ヨリ大和國ト名クルハ名アレハ
必ス實アリテ和ヲ以テ貴トスルノ國柄ナリ推古天皇ノ
朝ニ於越前ノ國ヨリ白鹿ヲ獻ス此鹿ノ長八尺ニシテ十
七股ノ角ヲ差上タリ聖德太子之ヲ相テ曰是靈獸ナリト
其十七ノ股ヲ改メ玉フニソノ股ノ一々ニ自ラ天然ノ文
字ノ彰ス初ニ琴ノ字アリ十七番目ノ末ニ鼎ノ字アリ之
ニヨリテ十七條ノ人道ヲ制スルニソノ初ノ琴ノ字カ下
ノ十六ニ冠スル琴ハ樂器ニシテ人心ヲ和クルヲ義トス
權利テアレ義務テアレ五倫テアレ五常テアレ忠孝テア

レ能ク和ヒテ中道ヲ行ハサレハ過不及ノ失アリテ人道
ツイニ紊ル東都日光山ニ於テ上ノ間ニハ家康公次ノ間
ニハ諸侯方カ相詰メ色々世熊樹木ノ話杯アル中ニ此世
界ニ若金ノナル樹カアリタラハ調法ナル事テアロフト
話シノ内ニ上ノ間ニ御座ル家康公サラ々ト紙ニ三枝
ノ木ヲ書テコレカ即ソノ金ノナル木シヤト次ノ間ニ差
出サレタ夫ニ又諸侯方カ六本ノ小枝ヲツケテ九朶ノ金
ノナル木ガ出來タユトアリソノ家康公ノ書タ三枝ノ木
ト申スハ右ノ方カ正直左方カ慈悲フカキ眞中ノ心木カ
萬ツホトヨキト云木ヲヤユノ正直ハ智慧ヲ以テ善惡邪

正ヲヨク照シテ天ノ正理ヲ行フコト慈悲フカキハ即仁
徳ニシテ巳レヲ忘レテ人ヲ愛憐スルコト此智慧ト慈悲
トガカタヨラスカタヨラスヨラスレテ過不及ナキヤウニ
中道ヲ行フカ萬ツホトヨキナリ上下貴賤君臣父子夫婦
兄弟各其所ヲ得テ和樂シテ且耽ムカ人道ノ至極ナリ喻
ヘハ佛前ニ捧ケル立花ノ如キハ真中ニ心ヲ立夫ヨリ小
心見越受控胸前置トツリ合カ定マリテアル夫ヲ不調法
ナル立方ヲシテ胸ガ高過ルカ又受ガアマリ出過キルカ
控カ細ヒカナリ場カナカフテカタヨルト高机ニ居ヘタ
時ニコロリト花甄カ倒ケルソノ柏子ニ輪燈ノ皿カ飛テ

打敷ニ油カ掛ル香爐カ落テ灰タラケニナル蠟燭立カタ
ナレテ内陣中ヲコロコロト倒ケ回ル如此騒動ノ起タ根
本ハ立華ノ受カタツタ一本倚タ計リナリ各方ノ一軒ノ
家モ親ハ親ノ居リ場所アリ子ハ子ノ居リ場所アリ夫婦
兄弟ミナ各ソノ所ヲ得テ五倫ノ道カ正フナル然ルヲ嫁
カ婿計リニカタヨルト大切ナル姑ニ義理ヲ失フ婿カ嫁
計リニ偏タヨルト恩アル親ニ不孝ニナル姑カ我子計リ
ニ偏タヨルト義理アル嫁ニ當リカ惡フナルソコヲコノ
人倫ノ道ト云ハ遠キ處ニ求ルニアラス親ハ親ラシウ子
ヲ憐ミ子ハ子ラシウ親ニ孝行ヲ盡シ兄ハ兄ラシウ弟ハ

弟ヲシウ萬ツ程ヨク和合シテ行クトキハ家繁昌ハ疑ヒ
ナシ之ヲ金ノナル木ト云フ御高札ニ人タルモノ五倫ノ
道ヲ正クセヨト仰セラレタハ皆夫々ノ居リ場所ヲ忘レ
ヌ様ニ致セトノコトナリ家ノ内ニハタツタ一人心得違
ヒカ出來ルト親ハ理屈カ過キテ無理オサヘニナリ嫁ハ
言譯ヲシテ辭カ多フナリ婿ハカンシヤクニナリテ物ヲ
投ケ道具ヲ打破ルト遂ニハ召使ノ者マテカブス云々云
テ家事ヲ怠ル様ニナルタツタ一人我居場ヲ忘レテカダ
ヨリタ計リテ家内中ガミナガタ付テ遂ニ破レ内輪トナ
ルコノ破内輪カ世ニ所謂ル貧乏神ノ御神體シヤ家康公

コノ萬程ヨキヲ金ノナルキト云ハレタハ實ニ名將ナリ
何ント各上ミ下ヒニユノ權利義務ノ人道カ過不及ノナ
キヤウニ程能ク明カニ行ハレ信義ヲ以テ有無通販レ和
合ヲ本トシテ家内睦シク臣民互ニ幸福ヲ得テ外ハ萬國
ノ耻辱ヲウケス内勤王ノ精忠ヲ抽テ、自主自由ノ權利
ヲ專ラニセハ天地神明ノ冥助ヲ蒙リ現世ノ利益疑アル
ヘカラヌ

萬國交際

萬國トハ海外ノ諸國ヲ指ス今條約ノ國カ御一新前二十
一ヶ國アリ御一新後ニ五ヶ國アリ合シテ十六ヶ國ヲ東

子テ交際ノ國トス交際トハ有無通販シ及征伐議事等ノ
音信相通スルヲ交ト云際トハ各國別性ノ國體有テ其水
際ヲ立テ、而モ互ニ相妨碍セヌ様ニ交リ附合ナスル事
ナリ所謂ル和シテ同セサル者也從來皇國ハ獨立不羈ニ
シテ國事産製渾テ外國ニ關セス唯長崎ニ於テ賣船ノ入
港ヲ許ス計リニテ而モ國大ニ治ル然ルヲ當今ニ至リ萬
國ト交際スルモノハ云何トナレハ一ニハ是即テ時勢ノ
變天理自然ノ然ラシムル所ニシテ人力ノ致ス所ロニ非
スニハ從前ハ既ニ海外ヲ名テ天險ト云天險トハ大平
洋及印度洋ノ如キハ都テ航海ノ術ノ堪ヘサル所ロナレ

ハナリ然ルヲ今ヤ西洋人力メテ知識ヲ開キ蒸氣船等ノ
窮理アリテ無風ノ大洋ヲモ船ヲ航シテ万里ノ遠キヲユ
ト、モセス之ニ依テ昔ノ天險カ却テ今ノ坦路トナリテ
數萬里ノ國モ猶シ隣國ノ如ク厚誼ヲ以テ廣ク交リ大ニ
互市場ヲ開テ各國ミナ野心ヲ去リ利ヲウユト盛ナルノ
時日本豈獨リ其間タニ介居スヘケンヤ三ニハ有無相易
スルハ人道ノ常法ナリ山村薪炭ヲ運ヒ江村鹽魚ヲ市ス
ル田野楮茶ヲ輸出シ市街ニ至テ酒油ヲ買フ等ノ利之ヲ
擴ムルトキハ遂ニ各國ノ交易ニ及ンテ始テ人間ノ大利
ヲ得ヘシ地理ニ隨テ産製品ヲ異ニシ年ニ豐凶アルコト

彼此同レカラス米價自ラ貴賤ヲ別ツ此國豐年ナレハ米
穀ヲ輸出シテ大ニ金ヲウル此國凶年ナレハ彼國ヨリ忽
マテ米麥ヲ輸入レテ大ニ人命ヲ助クルコト少ナカラス
殊ニ此日本ニ於テハ數百年來遊惰ニ耽リテ只口ニ常ニ
神國ノ靈ヲ説ノミニシテ我有スル所ノ靈ヲ研クコトヲ
知ラス然ルニ彼西洋ノ國ニ於テハ大ニ知識ヲ擴充シテ
事物ノ理ヲ窮メ種々便利ノ器械ヲ製造シテ人勞ヲ助ク
ルコト少ナカラス是ヲ以テ今般其利器ヲ採用シテ此國
ノ便利ヲ得ルコトハ皆人ノ知ル所ロナリ有無交易ハ各
國互ニ利ヲ得ルコト必然ナリ然ルニ此國ニ於テハ更ニ

又彼國ノ機械ヲ採用シテ用辨ヲ利シ知識ヲ發明スル事
ハ彼國多年ノ窮理ヲ一瞬間ニ學ビ彼國數百年ノ開化ヲ
半世ニ成ス事誠ニ今般萬國交際ノ大利益ナラスヤ然リ
ト云ヘニ先帝ハ攘夷ニシテ今上ノ和親シ玉フハ先帝多
年ノ震憂ヲ解サルニ似タリ是レカ大ニ庶民ノ怪ム所ロ
ナリ云何ト云ニ今論シテ云ソノ先帝ノ攘夷ト云ハ外國
人陰ニ野心ヲ狹ンテ我國ヲ奪ハントシ或ハ誑惑シテ此
國ノ米金ヲ掠ントスルノ夷ヲ攘フコトナリ又今上ノ和
親ト云フハ信義ヲ以テ有無通販シ賊心ヲ去リテ安危ヲ
共ニセントノ國ト和スル事ナリ先帝ト云ヘニ賊心ヲ

クシテ信義ヲ結フノ國ナレハ必ス和親スヘシ今上ト云
ヘトモ賊心ヲ以テ我國ヲ奪ハントスル國ナレハ乍ナ打
攘フヘシ銀行ノ新紙幣ハ蒙古ノ敗軍ヲ圖スルヲ以テ知
ルヘシ之ニ依テ之ヲ見レハ先帝ノ攘夷カ即チ今上ノ攘
夷ナリ今上ノ和親カ即チ先帝ノ和親ナレハ何ノ怪ム所
カ之ヲフンヤ夫既ニ如此外國ト和親條約ヲ結フトキハ
一新ノ制度モ古今ヲ斟酌シ西洋ノ實踐ノ法ヲ取捨シテ
百度皆改ル萬國交際ノ盛時ニ於テハ身ハ何レノ國ニ至
リテ生活ヲ致ソウトモ心一ツハ日本ノ靈德ヲ失ハヌ様
ニ各早ク敬神ノ誠意ヲ貫キ皇上奉戴ノ精忠ヲ抽テ、吾

身々々ノ守ル所口ノ一心カ定ラテハ提燈ニ火ノ燃レヌ
様ナモノナリ印シモ付キ定紋ヲモ付ケテアレントモ火ノ
消タ提燈ヲハヤハリ足元ハ暗ガリシヤ我ハ日本人ヂヤ
我ハ何宗ノ門徒シヤ何社ノ氏子シヤトイカホド臂ヲ張
テモ心口ニ守ル所口ノ一心カナレケバ形計リカ日本人
ニシテ心ハ日本人ニ非スソユテ日本ト云印シテ付ケ何
宗ノ門徒ト云定紋カ付タナラハ中ニ一心ノ火ヲ燃シテ
人道ヲ明ニシ人魂落着ノ見通シテ付心ニ塞ル所ナケレ
ハ種々ノ異學異見ニ煽動スル有可ラス兵法ニ曰無特其
不來特吾有以待之無特其不攻特吾有所不可攻也世界廣

シト雖凡人アレハ必教法アリ教法アルキハソノ教化ヲ
受クル者ニ守ル所ノ一心ナキ事能ハス若守ル所ノ誠信
ナクシテ我國ヲ自負シテ第一ト想シ我宗ヲ名テ正法ト
云ト雖其特所只彼不來ニ在テ我ニ在ラスンハ猶シ城廓
ヲ全シテ兵備ナキカ如シ危カラサランヤ歌ニ牽カレテ
ハ惡シキ道ニモ入ヌヘシ心ノ駒ニ手繩ユルスナ又古語
ニ水ハ方圓ノ器ニ隨ヒ人ハ善惡ノ友ニ由ル人心ハ水ノ
如シ又放駒ノ如シ善ク之ヲ導テ死生ノ道心ヲ生セシム
ルヲ善知識ト名ク是ヲ以能ク善知識ノ教ヲ信シテ死生
ノ道ヲ決スルキハ彼外教ノ侵入セサルヲ特マス曾テ侵

入スル事能ハサルヲ特ムナリ之ヲ金剛ノ一心ト名ク此
ノ一心又死生ノ道ニ於テ更ニ相妨碍セス孝ト云ヘハ親
ニ一心貞ト云ヘハ夫ニ一心忠ト云ヘハ君ニ一心來世識
神ノ趣ク所ハ其宗々々ノ一心ヲ決定スルキハ死生ノ道
路明カニシテ闇夜虎狼ノ憂アルヘカラス人唯生ノ道ヲ
知テ未ダ死後ノ道ヲ決セサレハ彼外教天獄ノ説モ時ニ
臨ンテ其誘導ヲ受サルヘカラス之ニ依テ宗教ノ説脈恒
ニ世教ヲ分離セス世教ノ起原必宗法ヨリ之ヲ垂ル、キ
ハ世教豈之ヲ遠キニ求ンヤ逆惡攝取ノ弘誓ヲ信受スル
處ニ却テ小罪ヲモ犯ス可ラサルノ理アリ此理ヲ後々ノ

行門ニ開テ五惡五善ノ勸懲善ク世教ト合シテ忠孝ノ道
義日日ニ上進スルルハ死ヲ決テ生ヲ全スル故ニ親族相
和シテ報恩ノ行業ト共ニ産業ヲ勉勵セン事豈樂カラサ
ランヤ



明治十年一月廿二日

御 届

同 年 二 月

發 兌

著 者

福岡縣平民

兒 玉 寬 淵

豊前國第一大區一小區小倉米町千百六十二地

明治十一年十月七日

御 届

同 年 同 月

出 版

翻 刻 出 板 人

大阪府平民

瀬 戸 清 次 郎

大阪府下第二大區四小區末吉橋通四丁目十六番地



弘

通

大阪書林

大野木市兵衛

松村九兵衛

岡田茂兵衛

前川善兵衛

柳原喜兵衛

前川源七郎

三木佐輔

森本太輔

淺井吉兵衛

中島徳兵衛

岡田藤三郎

岡島眞七

田中太右衛門

書

肆

中川勤助

中村彌七

明石忠七

鹿田南七

北尾卯三郎

花井宇助

吉田善藏

水谷卯八

吉岡平助

梅原龜七

中野啓藏

辻本信太郎

